

## 精神科治療学編集委員会

(五十音順)

## 編集委員

天野 直二	新井 平伊	加藤 敏	兼本 浩祐
鈴木 國文	仙波 純一	中安 信夫	堀川 直史
宮岡 等			(統計担当)三宅 由子

## 編集顧問

市橋 秀夫	笠原 洋勇	上島 国利	倉知 正佳	栗田 広
小島 卓也	融 道男	中井 久夫	永田 俊彦	樋口 輝彦
皆川 邦直	村上 靖彦	山口 直彦	吉松 和哉	

## 編集後記

ほとんどの新規抗精神病薬の添付文書には、警告あるいは重要な基本的注意の項目に「あらかじめ副作用（著しい血糖値の上昇から、糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡等の重大な副作用が発現し、死亡に至る場合がある）が発現する可能性があることを、患者およびその家族に十分に説明し、…」という意味の記載がある。副作用について、添付文書で家族に対する説明まで求めている薬剤は少なく、身体疾患の治療薬では血糖降下剤の中に「低血糖に関する注意について、患者および家族に十分徹底させる」と記載されているものがある。抗がん剤では「患者またはその家族に有効性および危険性を十分説明して…」という記載をしばしば見かけるが、「または」であり、これは告知の問題も関係するため複雑であろう。

精神科の日常臨床の中で家族に対する副作用の説明は適切にされているのであろうか。陽性症状が活発な急性期にも用いることがあるが、その場に家族がいない場合、医師はどのように対処すべきであろうか。また患者自身が家族に対する説明

を拒否した場合、どうするのであろうか。

新規抗精神病薬による治療が当然の流れであるかのように言われる中、この「家族にも説明する」という注意事項を学会や雑誌で十分に議論したという話も聞かないし、積極的に医師に伝えようとする製薬メーカーや臨床精神薬理の専門家に出会うことも少ない。医師はもっと法律との接点に慎重になって、周辺領域の関係者を交えて議論すべきであろう。「医療において悪いことをするはずがない」という医師の思いこみが、経済性や法律面を考える医療以外の世界の者によって都合よく利用されていると思うこともある。

さて先月号と今月号は強迫に関する特集であり、症状から治療まで、生物学的、非生物学的の両面から広く議論されている。強迫の理解にはどの視点も欠けてはいけなはずであるから、どうかご自分の興味ある項だけ読むことは避け、せめて抄録だけでも全項目に目を通してほしいと思う。

(宮岡 等)

## 精神科治療学

Jpn. J. Psychiatr. Treat.

第22巻 第6号(2007年6月19日発行)

定価：3,024円(本体2,880円)

年間購読料：定価42,483円(税込み、増刊号含む)

発行者—石澤雄司

発行所—星和書店

〒168-0074

東京都杉並区上高井戸1-2-5

PHONE 03-3329-0031(営業部)/0033(編集部)

F A X 03-5374-7186(営業部)/7185(編集部)

U R L <http://www.seiwa-pb.co.jp>